



## 4年ぶり3回目の国後島

2016年8月にビザなし専門家交流訪問で、4年ぶり3回目となる国後島へ行ってきました。前回2012年の調査は国後島南部を回りましたが、今回は国後島太平洋側の中北部を訪れました。また、墓参団に同行させていただいて択捉島北部の薬取付近（トッカリモイ）にも短時間でしたが上陸することができ、海食崖に貼り付くように生育するチシマコハマギクなど、さまざまな花が見られました。

国後島の調査は、初日から不測

の事態が続発。台風5号の影響で波が高い浜辺で、移動に使っていたトラックが砂にはまって動けなくなったり、ようやくたどり着いた小屋の外にヒグマが出没したり。翌日には荷物を運んでいた小型トラックが川を渡る時に水没して着替えなどが水びたしに。更に翌日には数メートル先にヒグマが出没し、調査を途中で断念せざるを得ませんでした。国後島に生息する「白いヒグマ」は見られませんでした。

調査は島最大の街である古釜布から約35km北東にあるセオイ川のロッジを拠点に行いました。整備された道路であれば車で1時間足らずの距離ですが、島の北東部は一般の車が通れるような道はほとんど整備されておらず、バギーや小型トラックで移動します。場所によ

てはオオイタドリなどをなぎ倒し、道なき道を守るバギーに揺られながら、思わず「僕の後ろに道は出来る…」と独り言つのでした。

今回訪れたセオイ川～音根別川の海岸付近は、大学院生だった2003年の国後島調査で訪れていた場所でした。当時、宿泊に使った2ヶ所的小屋（自然保護区等レンジャーの監視小屋）も健在で、1つはそのままの姿、もう1つは当時の面影を残しながらも大規模に改修されていました。

何度訪れても国後島の自然は素晴らしく、美しいだけではない「むき出しの自然」を感じます。再び訪問する機会があればいいなあ、と思いながら、台風6号の影響で予定より1日早く、古釜布をあとにしました。（加藤ゆき恵）

## 天然記念物に出会って

博物館に異動になり、これまで全く知らなかったことがあまりに多いことに自分自身でびっくりしています。

はじめて実物と対面させてもらった天然記念物のキタサンショウウオは目の前で見ると実にかわいいです。サンショウウオといえばテレビで見たオオサンショウウオのイメージが強く、巨大で少しグロテスクなものと思っていましたが、既存の概念を打ち壊すかわいさです。また、卵のうの美しさは見てみないと正直わからなかったのですが、「湿原のサファイア」と呼ばれる生まれたての卵のうでなくても十分です。本当にきれいです。

博物館の工作室で飼育されてい

るエゾサンショウウオも見せていただきました。人になつくといわれるだけあり近づくと頭を少し傾けて「ん？」という表情で大きな瞳で見つめてきます。いつも世話しているN学芸員の対応と私の対応では甘え方が違うと思いました。ウルウルした目で見つめられるとちょっと前のCMに出てきたワンちゃんと同じくらいの破壊力です。こんなにかわいい生物がいたことに気が付くのが遅すぎました。

ヒブナもはじめて実物を見ました。体の色が徐々に退色し、最終的に真っ白になることを知り非常に驚きました。その中間の白と橙の個体に対して「キミもそのうち全身が真っ白になるんだよ」と教えてあげたいです。悟ったようなため息をついて「あ、そう」とつれない答え

が返ってきそうですが。人間も最終的に白髪になりますが何か関係があるのでしょうか。

これまでキタサンショウウオとヒブナの話しかしていませんが、そのほかにもたくさん驚きがありました。すべてを紹介するとなると紙面が足りません。本当に素晴らしい場所です。

異動になってまだ少ししか在籍していませんが、知りたいことを調べるお手伝いも博物館の役目なのだと窓口において実感しました。来館する方々の疑問点を一生懸命に答えようとする学芸員を見ていると本当に頭が下がります。これからも「知りたい!」に答えようとするみなさんと仕事をさせていただければ嬉しいと思います。（渡邊聖知子）